

宇和島市袋町商店街の活性化

2年1組 野本 駆 2年2組 岩村進二郎
 2年2組 橋本 健生 2年2組 吉川 颯太
 指導者 石坂 美貴

1 課題設定の理由

現在、宇和島市の人口は減少傾向にある(図1)。それに加え、新型コロナウイルスの流行により、多くのイベントが中止になり、商店街を訪れる人が減少傾向にあると考えられる(図2)。そのため、新型コロナウイルスの流行が収まってきた今こそ、商店街の活性化が必要だと思い、この研究に決めた。

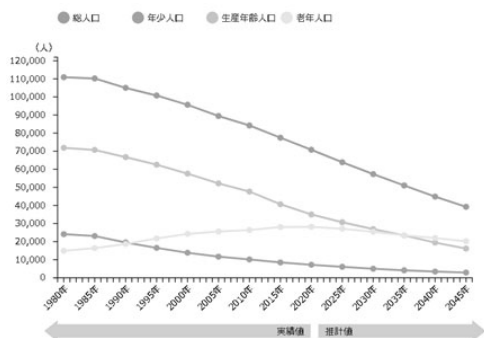


図1 宇和島市の人口推移¹⁾

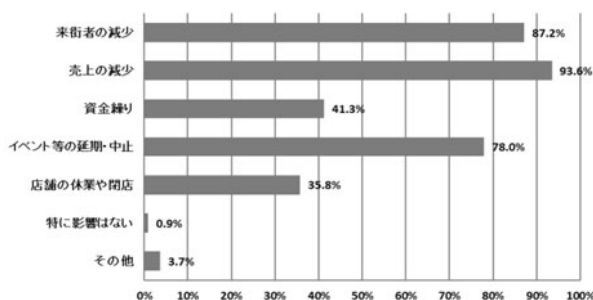


図2 新型コロナウイルス感染症の影響 (n=109)²⁾

2 調査方法

- (1) 過去の課題研究から分かることの調査、本校生徒を対象としたアンケート調査、実際に袋町商店街を訪れての現地調査
- (2) (1)の調査より、現在商店街が抱える問題点・課題点を考察
- (3) 商店街を活性化させるための具体的な取り組みを提案

3 調査結果

(ア) 過去の課題研究³⁾

中高年者の利用が多く、学生の利用が少ないことが分かった。そこで、高校生の視点からの商店街の活性化を目的とし、ターゲットを学生に絞って研究を進めることにした。

(イ) 本校生徒 75名へのアンケート

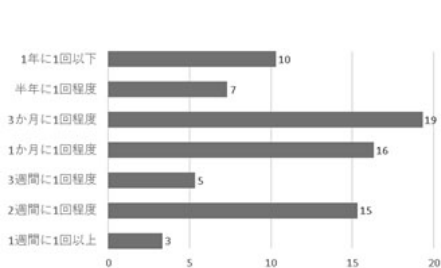


図3 商店街を訪れる頻度

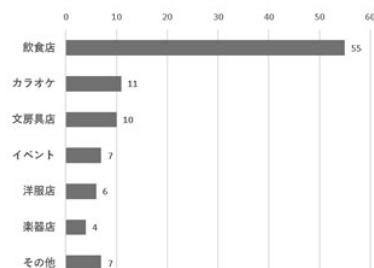


図4 商店街で利用する施設

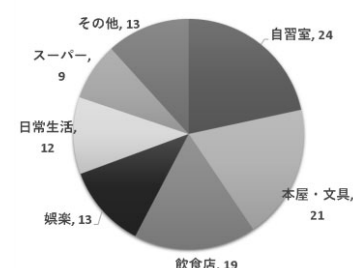


図5 商店街にあったらよいもの

図3から、1番多かったのは「3か月に1回程度」で、その次に多かったのが「1か月に1回程度」であることが分かる。図4から、商店街を利用している人の多くが、飲食店を利用していると分かる。図5より、自習室や本屋・文具店のニーズが多いことがわかる。

(ウ) 現地調査 (2023年7月5日実施)

表1 商店街の店舗状況の変化⁴⁾

	開	閉
H29年	96	32
R5年	70	65

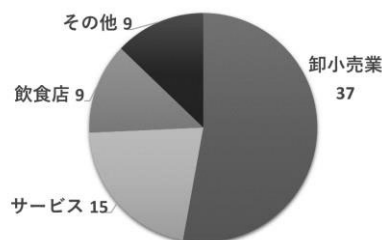


図6 商店街の店舗の職種 (R5年) (n=70)

表1より、平成29年度と比較して、現在では、空き店舗の数、割合共に増えていることが分かる。図6より、商店街の店舗の職種は1番に卸小売業、次いでサービス業や飲食店が多い。

4 商店街の活性化に向けての取り組み案

・学生イベント+マルシェ

2023年11月5日に行われた「第2回袋町音楽祭」、同時開催の「HUKUROMACHI マママルシェ」を訪れた。当日はどちらのイベントにも老若男女問わず多くの人が集まっており、普段の商店街と違い、たいへん賑わっていた。このことから、2つのイベントは、同時に開催することで集客力が相乗的に高まると考えられるため、どちらかのみではなく、同日の開催を提案する。また、学生イベントは吹奏楽だけでなく、書道パフォーマンスや絵画作品の展示など、文化部の発表の場にしてもよいと考える。

・カフェ+自習室

本校生徒へのアンケートより、現在需要のある飲食店と今後求められる自習室を掛け合わせ、カフェのようなおしゃれな自習室を提案する。商店街に近い「パフィオうわじま」、「ホリバタ」と差別化を図るため、『駅からの近さ』と『飲食自由』の両方を持ち味に、『下校時にフラッと立ち寄れる』をコンセプトとし、また、商店街の空き店舗を利用することで、新たな客層を呼び込みつつ、空き店舗の増加を抑える先駆けになるのではないかと考える。

5 まとめと今後の課題

今回、アンケートや過去の課題研究の結果から、袋町商店街を活性化させる案を高校生の視点から考えることができた。しかし、考えた案について、利益を生み出せるかどうかを、具体的なデータを用いて考察することができなかつたので、この先これらを実施するためにも、マルシェの出店にかかる費用や、商店街の一部を通行禁止にすることによる、その他の店の損益への影響を十分に考察する必要があると思う。また、自習室の案では、利益が出にくいのではないかと考えられ、商店街の活性化とは商店街全体の繁盛店を増やすことで達成されるため、近隣にテイクアウト方式のカフェを併設するなど利益の出る方法も併せて考えていきたい。

参考文献

- 1) RESAS 地域経済分析システム
- 2) 愛媛県経営支援課「令和3年度愛媛県商店街実態調査結果報告書」
- 3) 山本ら(2017)「宇和島商店街の活性化へ向けて」
平成29年度SSH生徒課題研究論文集
- 4) 宇和島商工会議所(平成29年度)「宇和島市中心3商店街空き店舗実態調査表」